

LED-Camp

チームビルディング

の理論と実践

その1.テキスト篇

2015年 8月24日(月)

星野利夫(株式会社ヴィッツ)

- 1.はじめに
- 2.自己紹介とは **宿題**
- 3.ふり返り
- 4.チーム
- 5.ミッションとルール
- 6.おわりに

みなさん、初めまして。(^^)
という訳でして、次ページは「はじめに」です。

- **LED-Camp**では、このテキストの内容を**予備知識**として押さえましょう。
- **LED-Camp**終了後は、自分のチーム(組織)でこのテキストに書いてあることと、体験したことを、**実践**しましょう。
- 実践したら、私(星野)にどんな変化があったのか、逆に、無かったのか、私(星野)にこっそり**教えてください**。アドバイスなど、お手伝いできる範囲で、お手伝いします。(^^)

突然ですが、みなさんにお願ひがあります。宿題です。
次で説明しますね。

宿題

- **LED-Camp**当日に、「四象限自己紹介」を実施します。
- このため、**LED-Camp**開始までにご自身の「四象限自己紹介」シートの作成をお願いします。
 - なお、「四象限自己紹介」シートは、参加者メーリングリストで配布します。

次は、宿題の内容説明です。

- 「四象限自己紹介」の説明と、シートの書き方
 - [説明] 氏名の他に、関連した3つの問いを立てることができます。
 - 例、A. 氏名 B. 過去 C. 現在 D. 未来
 - [書き方] 書き方は以下の通りです。

<p>A. 氏名、呼ばれたい名前(ニックネーム) 所属</p> <ul style="list-style-type: none">■ 必要であれば、氏名や所属にふりがなを振ってください。	<p>C. 今の感情</p> <ul style="list-style-type: none">■ 「意見」や「考え」ではなく「感情」です。<ul style="list-style-type: none">□ 例、わくわくしている。ドキドキしている。不安だ。緊張している。ゆううつだ。■ できるだけ当日に書いてください。
<p>B. 「LED-Campへ行く」と決めた理由</p> <ul style="list-style-type: none">■ 必要であれば、ふりがなを振ってください	<p>D. どんなチームにしたい? ※ LED-Campは3人1組のチームで開発を進めます。</p>

次は、書き方の例です。
「私(星野)の場合」です。(^ ^ ;)

- 「四象限自己紹介」シートの書き方の例
 - 私(星野)の場合

<p>A. 氏名、呼ばれたい名前(ニックネーム) 所属</p> <ul style="list-style-type: none">■ 星野利夫(ほしのとしお)■ としちゃん■ 株式会社ヴィッツ<ul style="list-style-type: none">□ 組込制御開発部 新事業推進室	<p>C. 今の感情</p> <ul style="list-style-type: none">■ 「ドキドキ」と「わくわく」の両方<ul style="list-style-type: none">□ 「ドキドキ」…緊張と不安。□ 「わくわく」…みなさんとの出会いと、今日からの5日間、何が起こるかの期待。
<p>B. 「LED-Campへ行く」と決めた理由</p> <ul style="list-style-type: none">■ ひとに何かを教えることが好きだから■ 知識やスキル以外にも大切なことがあることを、技術者に伝えたいから■ 何かに真剣に取り組んでいるひとが好きだから■ 色んなひとに出会えるから	<p>D. どんなチームにしたい?</p> <p>※ LED-Campは3人1組のチームで開発を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ (私にとってチームとはLED-Camp実行委員会)■ それぞれが自分の好きなことをやり、お互いを尊重しながら、学び合い、助け合えるようなチーム。

必ず書いて持ってきてくださいね。よろしくお願ひします。さて、なぜ自己紹介が必要なのでしょう。考えてみましょう。

■ そもそも、なぜ自己紹介が必要なのでしょう。

1. 定期的に自己紹介をしている。

2. 相手は自分のことを知っている。

- ・ 好み、価値観、経歴、経験

3. 自分は相手のことを知っている。

- ・ 好み、価値観、経歴、経験

6. 開発スピードが上がる。

- ・ タスクの停留が減少する。

5. コミュニケーションの質と量が向上する。

- ・ 問題の打ち上げが早い。
- ・ 懸念点や不安点の表面化が早い。

4. 良い関係性を築けている。

- ・ 相手の立場に立って考えることができる。

7. QCDが良くなる。

- ・ 成果物の品質が高い。
- ・ 納期を守っている。
- ・ 工数が減少している。

■ 図の概要

自己紹介から、成果物のQCD(品質、費用、納期)向上までのプロセスを示します。

もちろん、自己紹介だけでQCDが向上する訳ではありません。ですが、自己紹介などの活動によって関係性が向上することにより、QCD向上に大きく寄与します。

次ページへ続く。→

→前ページの続き。

QCD向上のためには、他にも様々な要素が必要です。この図では他の要素を省略しています。

■考察「実際の組織では何が起きているか」

前ページの「5. コミュニケーションの質と量が向上する」を見てください。多くの組織はこの「5.」に注力している印象です。具体的には「報連相」(報告、連絡、相談の略)という言葉を使い、「報連相をちゃんとやれ」と口酸っぱく言っています。

「報連相」を口酸っぱく言っている、ということは、人と人との「関係性」に注目していないと同じ意味だと考えます。何故ならば、もし、「関係性」を重

視しているならば、「症状」(報連相ができていないこと)に注目するのではなく、「病原」(なぜ報連相ができないのか)に注目するはずだからです。

また、「報連相をちゃんとやれ」と言うだけで、報連相ができるようになるのでしょうか。報連相って、そんなに簡単なことでしょうか。私は、そうは思いません。実際は、「報連相を簡単だと思っている人」と「報連相は難しいと思っている人」の両方がいるのではないのでしょうか。

報連相を簡単だと思う人は、難しいと思っている人の気持ちは、なかなか分からないでしょう。逆も同じです。

報連相を難しいと思う人は、簡単だと思っている人の気持ちは、なかなか

分からないでしょう。

結果、どうなるか。「あの人は私のことを分かってくれない」と思われ、お互いの距離が離れていく…。そんなことが至る所で起きているのではないのでしょうか。

■提案「では何からやれば良いのか」

流れ図にある通り、まずは目先のゴールとして、「4. 良い関係性を築けている」を目指すべきです。

「4. 良い関係性を築けている」を目指すならば、「1. 定期的に自己紹介をしている。」は不可避であると考えています。

次ページへ続く。→

次は、他のメリットについて考えてみましょう。

→前ページの続き。

■自己紹介のメリット

自己紹介の効果には、前ページで見た通り、長い目で見ると、QCD向上があります。これは今すぐ実現する訳ではありません。なので、長期的なメリットであると言えます。

では、短期的に見ると、どのようなメリットがあるでしょうか。その一つに「コミュニケーション時の精神的な負担減」を挙げることができます。

もう一度、前々ページの流れ図を見てください。「4. 良い関係性を築けている」の中に「相手の立場に立って考えることができる」とあります。

では、相手の立場に立って考えることができるようになると、何が起こるのか考えてみましょう。

相手の立場に立って考えることができるようになると、気遣い、ねぎらい、思いやりの言葉が多くなります。

例えば、「何か手伝えることはありませんか」、「毎日大変ですね」、「一緒にやりましょう」、「ありがとうございます」というような言葉です。

このような言葉を掛けられると、嬉しく感じるものですし、もっとその人と話したいと思うでしょう。そうすると、コミュニケーション自体が楽しいものになり、コミュニケーション時の精神的な負担は減ります。これを「質の高いコミュニケーション」と呼びます。

■質の高いコミュニケーションのコツ

このような、気遣い、ねぎらい、思いやりの言葉は、人によっては簡単に言える言葉ではありません。非常に

難しいと感じる人もいるでしょう。その場合、最初は意識的に使った方が良いでしょう。

とは言っても「相手の立場に立って考える」というのは、簡単なことではありません。その場合、どうすれば良いか。実は、とても簡単で、非常に効果的な方法があります。それは、その人の良いところを見つけて、その人を好きになることです。

「好き」という言葉に抵抗があるようでしたら、「尊敬する」、「感謝する」、「関心を持つ」ならば、どうでしょうか。

お互いが相手の存在そのものに関心を持つことが、「相手の立場に立って考える」ようになることの第一歩であると考えます。

=

次は、自己紹介するときに必要なものについて考えてみましょう。

- 自己紹介をするときには「積極性」が必要です。
 - 何もアクションをしなければ、始まりません。
 - 相手からのアクションを待つ、という手もありますが、全員ともそうだと困ります…。
 - 日常生活ならば、「今日できなくても明日がある」は通じるかも知れませんが。
 - しかし、LED-Campは泣いても笑っても4日間しかありません…。

 - 相手の存在そのものに関心を持ってください。
 - そして、何かのアクションを起こし、そのことを相手に伝えてください。
 - 「何か手伝おうか」と言う。
 - 「ありがとう」と言う。
 - 相手の状況を確認する。
 - 自分の状況を相手に伝える。などなど。

 - つまり、アクションを起こすことに「積極的」になってください。。

**次は、演習シートです。
理解度を確認しましょう。**

- 四象限自己紹介の特色を説明してください。

- 自己紹介の実施によって、どのような効果が期待できるか、具体例を添えて、説明してください。
 - なお、具体例はご自身の過去の経験でも結構ですし、それ以外のこと(他人の話、予想)でも結構です。

より良い自己紹介にするためには、「ふり返り」と「分かち合い」が有効です。
次の章では「ふり返り」と「分かち合い」について考えてみましょう。

- 「ふり返り」とは、「分かち合い」とは、何でしょうか。
 - 「ふり返り」とは「内省」のことです。
 - 「分かち合い」とは「共有」のことです。

「ふり返り」をするとどうなるのでしょうか。

- 「ふり返し」をすると、どうなるのでしょうか。
 - 「ふり返し」をすると、こんなプロセスが発生するでしょう。
 - 1. 自己紹介する前は、他の人は何を聞きたいか分からない、他の人も私の何を聞きたいか分からない、という状態でしょう。
 - 2. 次に、自己紹介をすることによって、自分に関することのうち、自分の話したいことを話すことができる状態になります。
 - 3. この状態の時に、「ふり返し」を実施してみましょう。
 - 4. 「ふり返し」の実施によって、気付いたこと、感じたことを言語化できるようになります。
 - 例、自分が「できた」とか「良かった」と思った点を言語化できる。
 - 例、自分が「できなかった」とか「上手いかなかった」と思った点を言語化できる。
 - 5. 言語化することにより、記憶に定着しやすくなります。
 - 6. 記憶に定着するので、より良い自己紹介ができるようになります。

- 上記プロセスで分かるように、「ふり返し」は自己紹介の改善だけでなく、様々なことの改善に役立ちます。

「分かち合い」をするとどうなるのでしょうか。

- 「分かち合い」をすると、どうなるのでしょうか。
 - 学習速度が数倍になります。
 - 他人「ふり返し」を聞くことによって、自分と同じ意見と、自分と違う意見を見つけることができます。
 - 同じ意見を聞くと・・・
 - 共感し、「私とあなたは同じ人間」と思えます。
 - 違う意見を聞くと・・・
 - 「そういう見方があったか！」
 - 思考の枠が外れます。(これを「リフレーミング」と言います。)
 - 自分だけの「ふり返し」では気付かなかったことを言語化できます。
 - 「逆に考える人がいるんだ！」
 - 色々な人がいるんだということ、色々な人がいていいんだということ(ダイバーシティ、多様性)を実感できます。

「ふり返し」で使用する「ふり返しシート」というものがいくつかあります。効率良く、気軽に使えるものもあります。次で、どんなふり返しシートがあるのか、見てみましょう。

- ふり返りシートとは
 - ふり返り(内省)のときに使用するシートのことです。
 - シートには「問い」があり、何をふり返れば良いのか、分かるようになっています。

- ふり返りシートいろいろ(1)
 - 「設問シート」、「KPTシート」、「YWTシート」を紹介します。
 - 設問シート
 - 何を問いにするかが大事です。(講師の腕の見せ所です。)
 - 予め問いを用意する場合と、その場を見て(参加者の表情などを見て)問いを決める場合があります。
 - 以下、設問の例です。
 - 例、どんな気付き、学びがありましたか。
 - 例、どんな変化がありましたか。
 - 例、今回の内容を踏まえて、明日から何を始めますか。(やめますか。)

■ ふり返りシートいろいろ(2)

□ KPTシート

- 定型化したふり返りシートです。
- 設問は、K(続けたいこと)、P(問題点)、T(次に挑戦すること)の3つです。
- 「KPTをやる」とは、このシートを使用してふり返りをすることです。
- 詳細は、別セッションテキスト「アジャイル演習」を参照してください。

■ ふり返りシートいろいろ(3)

□ YWTシート

- YWTはKPTと大変似ていますので、YWTとKPTの違いを押さえながら、どのようなものなのか、見てみましょう。
- KPTとの共通点。
 - 定型化したふり返りシートです。シートのフォーマットも大変似ています。
- KPTとの違い。
 - KPT
 - 設問は、K(続けたいこと)、P(問題点)、T(次に挑戦すること)。
 - チーム全体のことは出しやすい。
 - ネガティブな意見は出しやすい。
 - 後ろ向きになりやすい。
 - YWT
 - 設問は、Y(やったこと)、W(分かったこと)、T(次にやること)。
 - チーム全体のことは出しにくい。
 - ネガティブな意見は出しにくい。
 - 前向きになりやすい。
- 個人的な意見や感想、ポジティブな意見や感想をより求めたい場合は、YWTがより良いと思います。
- チームとして、次は何に挑戦したいか、どちらへ進むのか、という意見をより求めたい場合は、KPTがより良いと思います。

**次は、演習シートです。
理解度を確認しましょう。**

- 「KPT」、「YWT」とは、何の略でしょうか。



「自己紹介」で自分のことと相手のことが分かりました。
「ふり返り」と「分かち合い」で、より良い自己紹介ができるようになりました。
次は「チーム」について考えてみましょう。

「技術的な知識とスキルだけでは技術者は幸せ になれないかも知れないと大真面目に思った話」

■無能力技術者の格闘

私は組込み技術者を1997年からやっています。今年で19年目突入です。多くの方々のお蔭で、いろいろな経験を積むことができました。

最初は「世間知らずにも程がある」と言われるんじゃないかと思うほどの、無能技術者でした。なので、とにかく知識を身に付けました。

どんな仕事でも「やってみる？」と聞かれたら、「やります！」と即答。内容もろくに確認せずに……。引き受けてから、大急ぎでやり方を調べる……。というやり方をしていました。仕事を頼まれなくなったら終わりだと思ってい

ましたので……。本を漁ったり、何を勉強すればできるようになるかを調べたり、人に聞きたりして、なんとか仕事をもらい続けました。

そのうち「知っているだけじゃダメだ」ということに気付きました。経験がなくて、応用力がなくて、注意すべきことが何か分からない(そもそも注意しなければならぬという発想が無い)という状態でした。

そこで、何かスキル(能力)を付けようとするのですが、一朝一夕でスキルを獲得できる訳がありません。

でも、「とにかく自分だけの強みを何か身に付けよう」と思い、「誰よりも

タイピングが早いこと」を目指しました。プログラマの生産性なんて、大半はタイピングだろうという、安直な考えです。同時に、テキストエディタのショートカットキーをカスタマイズし、編集スキルを上げることにこだわりました。

このアプローチは間違えてなかったような気がします。タイピングのトレーニングばかりやった成果が出て、3ヶ月ぐらいで、飛躍的に早くなりました。

次ページへ続く。→

→前ページの続き。

■コピペプログラミング

あと、参考になりそうなコードを探し出す能力も上がりました。これは、プログラムを組むときは全部タイピングするよりコピペした方が早いことに気付いたから、というのがありますが、ゼロから書いた自分のオリジナルのコードだと、コードレビューでボコボコにされることが分かったから、というのがあります。

ならば、既存のコードを組み合わせれば良い。徹底的に組み合わせよう。徹底的にコピペで書こう。どんなに些細なことでも、例えば変数の宣言ですら、コピペでいこう。そうすれば、コメントの書き方も模倣できるし、新規変数のネーミングも模倣できるし。

▽ ▽ ▽

「星野くん、ここのコメント、何でこんなコメント？」

「えーとですね、これは別関数に似た処理があつて、そこに倣いました。」

「ちょっと、イケてないなあ…。ちょっと直してよ。」

「じゃあ、参考にした関数のコメントはどうしますか？ あと、1ヶ所だけじゃないんです。他の関数も同様のコメントがあるんですけど…。」

「えー、そうなの。…そのままでいいや。」

△ △ △

…と、まあ、こんな感じです。

ちなみに、その時の現場は、「理想的なコードを追求する」ことよりも、「前例を踏襲する」ことの方が重要で

した。なので、前例に無いコードを書いちゃうと、コードレビューでボコボコにされる訳ですね。

■仕事が回り出すと、仕事が回らなくなる

タイピング速度の向上と、徹底的なコピペコーディングの効果で、コーディングの生産性「だけ」は、周囲の誰よりも早くなりました。結果、それなりに評価され、それなりのポジションを得ることができました。

すると、どんどん面白い仕事がやってくるようになりました。私の現場の仕事は、ほとんどが派生開発でしたが、私のところには新規モノもそこそこやってきました。

次ページへ続く。→

→前ページの続き。

そんな感じで4、5年ぐらいが経ちました。このときは、ちょっと大変でした。とにかく、仕事が多すぎる。仕事が回らない。月の残業時間は、100時間を切りませんでした。一番多いときで160時間ぐらい残業していました。

このとき、技術的な知識とスキルだけでは技術者は幸せになれないかも知れない、と大真面目に思いました。

■技術者の幸せに必要なもの

そこから、いろいろな勉強を始めました。コーチング、リーダシップ、ファシリテーション、などなど。

プロジェクトマネージャを任された時期に、円形脱毛症になりました。正直、これは自分自身が驚きました。自分だけは、この手の話に無縁だと

思っていましたから……。

円形脱毛症って、頭だけじゃないんですね。体中にできるんです。顎とか、喉にもできました。背中とか、太ももとかにも……。大きい物だと握りこぶしぐらい、小さなものだと一円玉の半分ぐらい。大小様々の「クレータ」が体中のいたるところに30ヶ所ぐらい。

会社に相談したら「病院へ行け」と言われ、メンタルクリニックで「うつ病」と診断され、その後、2年間投薬治療を受けました……。

思い返せば、自分の表層意識では「まだまだ楽勝、大丈夫」と思っていたのに、深層意識は「もうダメ、無理」って言っていたんですね。

確かに、自分のチームの仕事は、いつも火の車。プレイングマネージャ

なのに、メールの処理と管理帳票のチェックで一日が終わり、自分が担当している部品の設計は残業時間を使ってやっている有り様でした。

さらに、当たり前のように起こる「ちゃぶ台返し」、そして、常に納期遅れの状態……。

この体験を周囲に話と、「あるある」という反応が大半でした。あー、自分だけじゃないんだ……。

この辺りから、本腰を入れて、どうしたらもっと楽しく仕事ができるか、わくわくしながら仕事ができるか、考えるようになりました。そうすれば、自分のように「うつ病」になる人が減るんじゃないかと考えた訳です。

次ページへ続く。→

→前ページの続き。

現時点の私の答えは「チームビルディング」です。

■チームビルディング

なぜ、チームビルディングでは、人間関係にフォーカスするのか。より良いチームとは何か。より良いチームを作るにはどうしたら良いか。

このセッションは「チームビルディング」がテーマです。どうすればこのプロジェクトが成功するのか、みなさんと一緒に考えたいと思います。

そしてもう一つ。アジャイル開発です。どうすればプロジェクトは好循環で回るようになるのか。そのシンプルな答えがアジャイル開発にあると思っています。アジャイル開発は次のセ

ッションのテーマです。

このLED-Campでチームビルディングの概念を理解し、アジャイル開発を実践してください。生きた知識と経験を獲得してください。そして、実際の現場で活用してください。

みなさんのこれからの技術者人生が、楽しく、やりがいのあるものになりますように。

=

**どうしたら、チームになれるのでしょうか。
次で考えてみましょう。**

チームビルディングとは、

「個の集まり」から「機能するチーム」にすることです。

フォーカシング

チームの課題への理解、意識、意欲の焦点を合わせます。

メンバー同士の相乗効果によって
1+1=3にも4にもなります。

メンバーひとりひとりのやる気
が高まります。

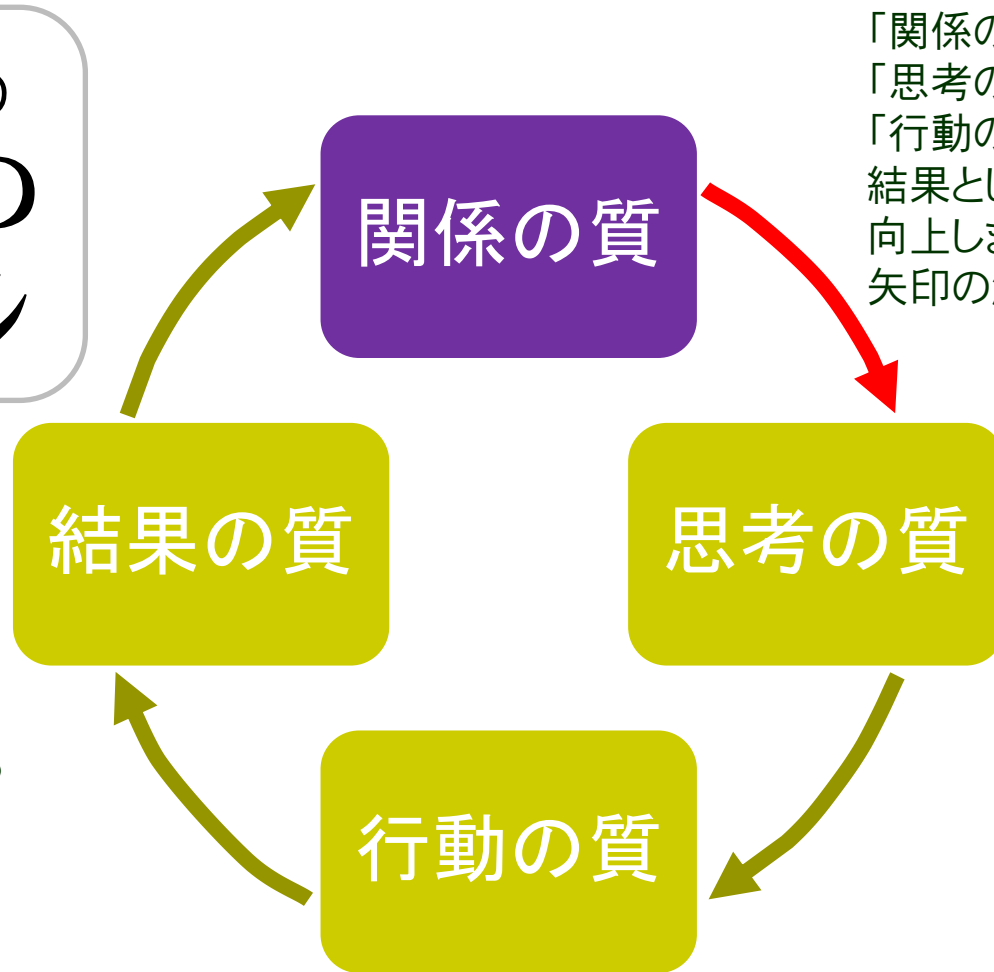
ダイナミズム

モチベーション

チームビルディングをまったくやらないとどうなるか。
開発現場で起きそうな失敗パターンを上手く説明した「モデル」があります。
次で見てください。

ダニエル・キムの 組織成功の 循環モデル

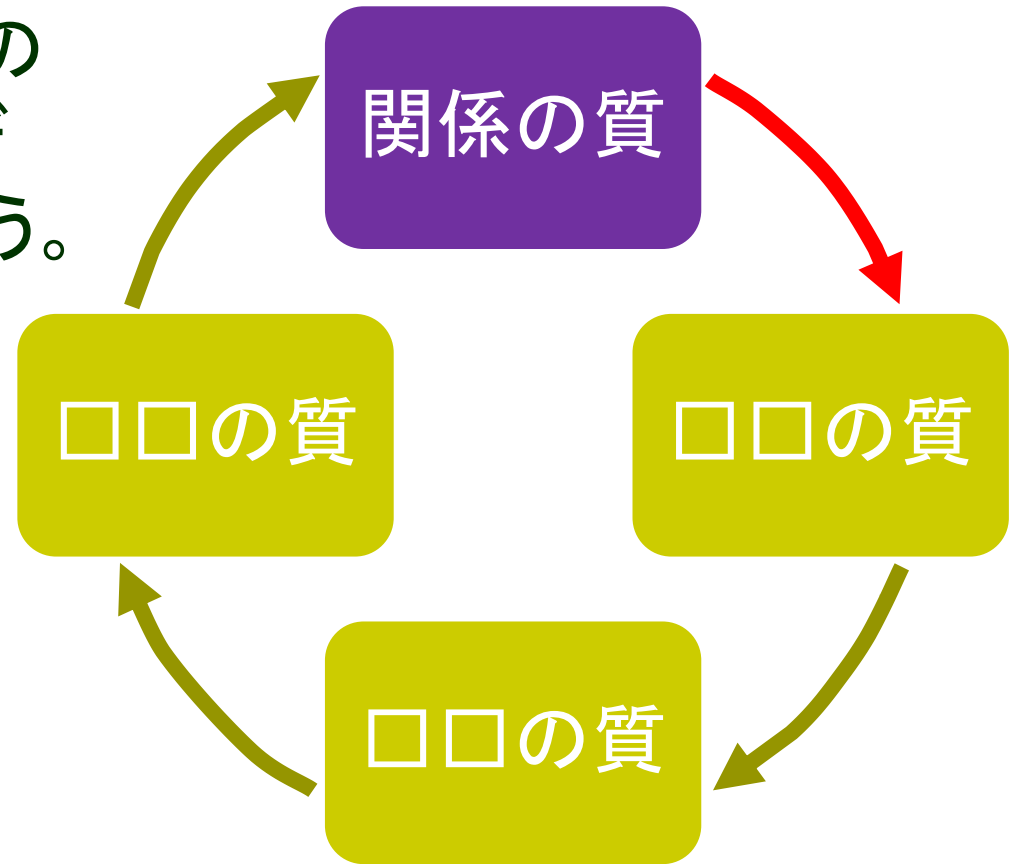
最初に「結果の質」に着目すると、逆回転します。まず、直接的に結果になる行動以外を排除するでしょう。次に柔軟な思考ができなくなります。結果として、「関係の質」が低下します。



「関係の質」が向上すると、「思考の質」が向上し、「行動の質」が向上し、結果として「結果の質」が向上します。矢印の流れで循環します。

次は、演習シートです。
理解度を確認しましょう。

- □□に適切な文字を入れ、「ダニエル・キムの組織成功の循環モデル」を完成させましょう。



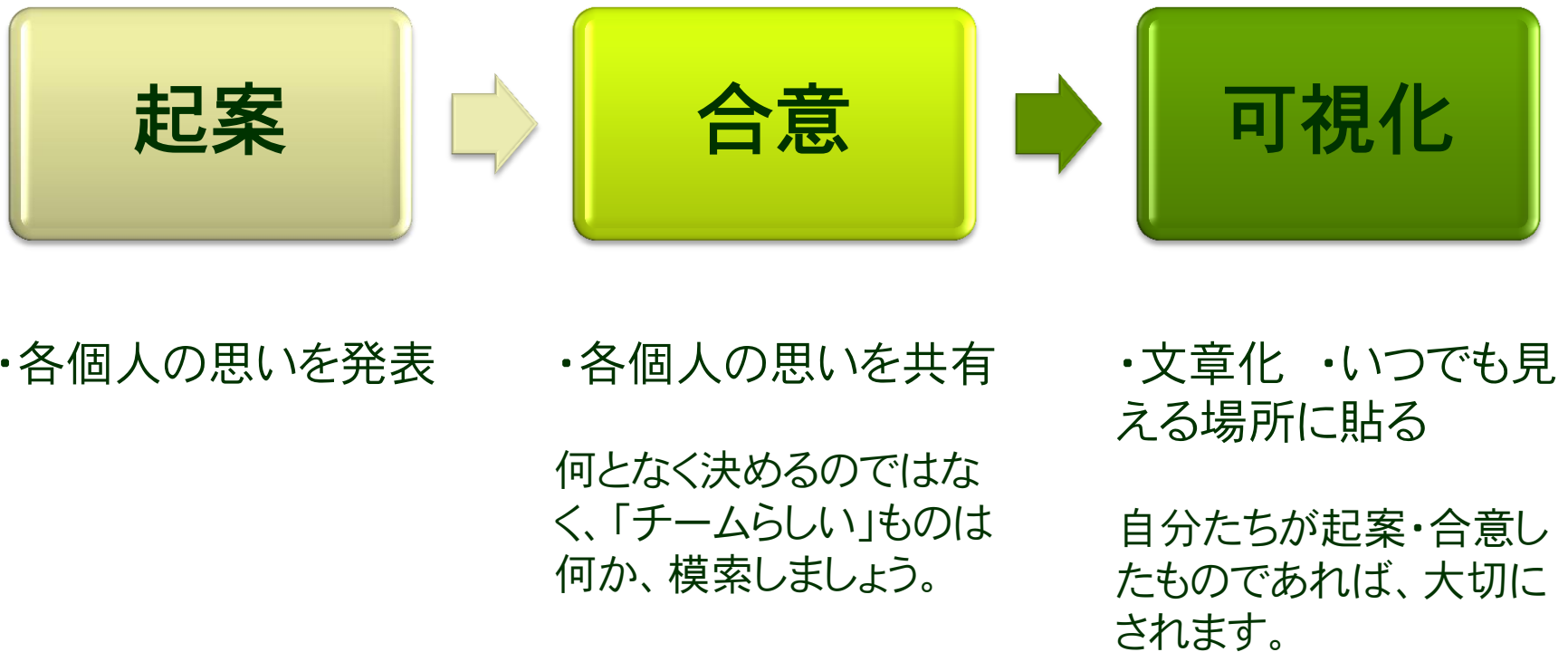
チームビルディングの一環として、チームで決めて欲しいことがあります。
ミッションとルールです。次章でお話します。

ミッション

使命とは、

自らの命を何に使うか、自ら決めることです。

ミッションの作り方、使い方を示します。



ミッションを達成するために、もう一つ決めて欲しいことがあります。

ルールとは、

プロジェクト、チーム、ミーティングなどで設定する行動規範のことです。

- ・チーム目標達成のため
 - ・機能するチームになるため
- に設定します。

目的や目標からアプローチ
例「時間を守る」

理想からアプローチ
例「挨拶をする」

・文章化 ・いつでも見える場所に貼る

自分たちが起案・合意したものであれば、ルールは大切にされます。

起案



合意



可視化

・各個人の思いを共有

どうすれば目的、目標を達成するか、考えてみましょう。

否定的な言葉よりポジティブな言葉の方が受け入れやすくなります。

「否定的な言葉」で作ったルールと「ポジティブな言葉」で作ったルールの違いを見てみましょう。

例題 大遅刻事件

話に夢中になってしまった、時刻を勘違いしていた、などの理由で遅刻すると、時間にルーズだ、やる気がない、大人としての自覚が無い、と思われてしまいます。また、チーム全体が、或いはLED-Camp全体が「しらけ」ムードになるかも知れません。チームの目的、目標を達成できないかも知れません。この場合、どんなルールを制定すれば良いのでしょうか。

時間厳守

- ・具体的な行動を想像しにくい。
- ・個人に完結しており、チームのメリットを活かしていない。
- ・守りにくい。
- ・次に破る人は孤立する可能性がある。

「否定的な言葉」をそのままルール化すると「時間厳守」になってしまいます。

ポジティブな言葉にすると、こんな感じです。

時刻10分前に気付いたら他のメンバに声を掛ける

- ・具体的な行動で、何をすれば良いのか、分かり易い。
- ・チーム全体の行動になっている。
- ・もし、守られなかったとしても、誰も孤立しない。

次は「ポジティブな言葉」で作ったルールの事例集です。
参考にしてください。(^^)

ルール事例集1

ルール事例	狙い
<p>語りたい人が語る。 語りたい人は語らない人に強制しない。 語りたくない人は語る人の邪魔をしない。</p>	<p>参加するしないは自分の意志で。 過剰な自己開示を防ぐ効果もあります。</p>
<p>ここで語ったことは、ヨソでは語らないようにしましょう。</p>	<p>ホンネのなかには部外者に知れると都合の悪い話もあります。</p>
<p>ここで語らなかつたことは、ヨソでは語らないようにしましょう。</p>	<p>ここでホンネを出さず、あとで愚痴や陰口はいわないように、という意味です。</p>
<p>意見の対立や食い違いをみんなで楽しみましょう。</p>	<p>調和しないといけない(=ホンネを抑える)という気持ちはずしてあげます。</p>
<p>強がりをおらず、自分の弱みを素直に見せましょう。</p>	<p>タテマエとホンネをこういいかえるだけで、わかりやすくなります。</p>

ルール事例集2

ルール事例	狙い
強がりをおかず、自分の弱みを素直に見せましょう。	タテマエとホンネをこういいかえるだけで、わかりやすくなります。
肩書や立場を忘れ、自分のことは棚にあげましょう。	責任という重しをはずすだけで、タテマエの発言が減ります。
今日は結論を出したり合意したりすることはやめましょう。	答えを出さないといけないという強迫観念をはずせば、気軽に話せます。
今日はいいあう場ではなく、聴きあう場にしましょう。	ランクの高い人が発言を独占するのを禁止するルールです。
正論をいすぎたり、相手をやっつけすぎたりしないようにしましょう。	へこまされると、二度と話をする気がなくなります。

**次は、演習シートです。
理解度を確認しましょう。**

(まとめ)

どんな表現にすれば、守り易く、誰も孤立せず、自分のチームらしいルールになるか、考えてみましょう。

起案時のルール

合意時のルール

時間厳守
(集合時刻、終了時刻)

アジェンダに集中する

建設的な意見を出す

ヒソヒソ話をしない

いよいよ、このテキストも終わりが近付いてきました。
私からみなさんにお願ひがあります。

- **LED-Camp**では、このテキストの内容を**予備知識**として押さえましょう。
- **LED-Camp**終了後は、自分のチーム(組織)でこのテキストに書いてあることと、体験したことを、**実践**しましょう。
- 実践したら、私(星野)にどんな変化があったのか、逆に、無かったのか、私(星野)にこっそり**教えてください**。アドバイスなど、お手伝いできる範囲で、お手伝いします。(^^)

大切なことですので、二度書きました。

□ チェックリスト

- チームビルディングにおいて「自己紹介」が必要な理由を説明できますか。
- 「ふり返し」で何が起こるのか、説明できますか。
- 「分かち合い」で何が起こるのか、説明できますか。
- 「チームビルディング」とは何か、説明できますか。
- 「ダニエル・キムの組織成功の循環モデル」を書けますか。
- 「ミッション」とは何か、説明できますか。
- ポジティブな言葉で「ルール」を書いた方が良い理由を、説明できますか。

次は、私の連絡先です。

■ 連絡先

□facebook 星野利夫(愛知県岡崎市)



「チームビルディングの理論と実践」はここまでです。
ありがとうございました。(^^)